

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）  
分担研究報告書

「高齢者の在宅医療における薬物療法に関する研究」

分担研究者 鈴木裕介 名古屋大学大学院医学系研究科地域包括ケアシステム学 准教授

研究要旨：

在宅療養高齢者の薬物療法に関する論拠の構築を目的として、文献データベースを用いて論拠の収集をおこない、系統的レビューを行った。一次選択された66文献の中からさらに対象や目的の妥当性の視点から絞り込みをおこない、二次選択された文献を用いて構造化抄録を作成した。在宅医療の領域では66件の文献が一次選択され、このうち42件が二次選択された。二次選択された文献のうち18件（42.9%）は横断研究であり、コホート研究7件（16.7%）や介入研究5件（11.9%のうち2件は非ランダム化試験）などより論拠として質の高い報告はごく限られたものであった。介入内容は退院前や直後の訪問や電話インタビューによるカウンセリングによる服薬遵守率の向上や再入院リスクの低下などであるが、対象となるサンプル数、介入効果とも報告によるばらつきがあった。今回の文献検索においては在宅療法高齢者のうち非通院の在宅医療をうけている脆弱高齢者に関する論拠はほとんど報告されていないことが明らかとなり、今後の益々増加する在宅療養高齢者の論拠構築の必要性を示唆するに至った。

A．研究目的

本研究は、服薬遵守率や不適切薬剤の使用に対する介入効果等をアウトカムとした在宅医療における関連指標の意義を明らかにするために、文献データベースを用いてエビデンスの収集をおこない、系統的レビューを行うことを目的とする。今年度は一次選択された文献の中からさらに絞り込みをおこない、二次選択された文献を用いて構造化抄録を作成した。

B．研究方法

1. 対象文献

2013年までに出版された英語および日本語文献。

2. 対象疾患

薬物療法を受けている在宅療養高齢者を対象とした

3. 文献検索

Research Question の設定

在宅療養高齢者に関して、服薬遵守率、不適切処方の数等を"outcome"とした Research

Question(RQ)を設定した。

Key words の選択

在宅医療関連の key words としては community-dwelling, elderly, homecare をキーワードとして選定した

検索

Key words に基づいて検索式を作成し、文献検索を行った。データベースは Medline、Cochrane data base、医学中央雑誌とした。

#### 4.文献の二次選択

上記で検索された文献のサマリー等を参考に、構造化抄録の作成に値する文献を選択した。

#### 5.構造化抄録の作成

二次選択された文献を詳読し、構造化抄録を作成した。

(倫理面への配慮)

文献に基づく系統的レビューであり、倫理的な問題は発生しない。

### C . 研究結果

在宅医療領域では 66 件の文献が一次選択された。このうち 42 件が二次選択され、構造化抄録作成の対象となった。リサーチクエスチョン(RQ)としては、下記の？つが設定された。

RQ1 地域医療スタッフによる介入が服薬遵守率の向上に寄与するか

(介入 2 文献) (介入を伴わないコホート研究 1 文献)(横断研究 9 文献)

RQ2 地域医療スタッフによる介入が不適切処方の減少に寄与するか

(介入 3 文献) (介入を伴わないコホート研究 2 文献)(横断研究 4 文献)

RQ3 地域医療スタッフによる薬剤に関する介入が予後(再入院リスク、転倒等)の向上に寄与するか

(介入 3 文献) (介入を伴わないコホート研究 6 文献)(横断研究 3 文献)

上記の RQ に従い、構造化抄録を作成した(別添資料参照)

今回の文献検索により、在宅療養高齢者の薬剤に関する研究の大部分が横断研究であり、より論拠として強い介入研究やよくコントロールされたコホート研究が少ないことが明らかにされた。ランダム化された介入研究は 4 件抽出されたそのうち 2 件が薬剤師による内服カウンセリングおよび CGA (包括的老年医学評価) 時の服薬レビューの精神神経用剤の処方内容に及ぼす影響であり、どちらとも一定の介入効果を確認している。サンプル数 100 前後の比較的小規模なものでは転倒、再入院リスク、服薬遵守率などにおける介入効果を確認している。

## D．考察と結論

在宅療養高齢者の薬物療法に関する系統的レビューにより、在宅医療分野における論拠の構築が未成熟な現状が明らかになった。今回のキーワードによる検索で「homecare」というキーワードで検索しても、いわゆる通院困難により在宅医療を受けている言わば「狭義」の意味での在宅療養高齢者に関する論拠の蓄積がほとんどないことがうかがわれた。それでも一部のよくコントロールされた介入試験やコホート調査の結果から在宅復帰前あるいは直後の服薬レビューによるイベントリスクを高める薬剤処方に対する抑制の効果が認められるとする報告があり、今後通院不可能なより虚弱な在宅療養患者の薬物療法に関する論拠の蓄積が望まれる。

## E．研究発表

### 1．論文発表

1. Shiraiishi N, **Suzuki Y**, Matsumoto D, Jeong S, Sugiyama M, Kondo K, Kuzuya M. The effect of additional training on motor outcomes at discharge from recovery phase rehabilitation wards -A survey from multi-center stroke data bank in Japan- PLOS ONE 2014 13;9(3)
2. Hirose T, Hasegawa J, Izawa S, Enoki H, **Suzuki Y**, Kuzuya M. Accumulation of geriatric conditions is associated with poor nutritional status in dependent older people living in the community and in nursing homes. Geriatr Gerontol Int. 2014 Jan;14(1):198-205.
3. Makino T, Umegaki H, **Suzuki Y**, Yanagawa M, Nonogaki Z, Nakashima H, Kuzuya M. Relationship between small cerebral white matter lesions and cognitive function in patients with Alzheimer's disease and amnesic mild cognitive impairment. Geriatr Gerontol Int. 2013 Nov 12.

### 2．学会発表

1. **鈴木裕介**、広瀬貴久、辻典子、梅垣宏行、葛谷雅文  
介護支援専門員の認知症の知識向上のための教育プログラムの効果に関する検討  
第55回日本老年医学会学術集会
2. **鈴木裕介**、広瀬貴久、辻典子、葛谷雅文  
地域包括ケアの実践に必要な地域特性の把握-都市部における在宅高齢者の現状-  
第55回日本老年医学会学術集会

## F．知的財産権の出願・登録状況

- 1．特許取得           なし
- 2．実用新案登録   なし
- 3．その他            なし